

平成26年度

学校関係者評価報告書

平成27年9月

筑波研究学園専門学校
学校関係者評価委員会

■平成26年度 学校関係者評価について

筑波研究学園専門学校では、平成20年度より自己点検・評価委員会を設置し、日頃の教育活動について自己点検・評価を実施してきました。また、平成25年度からは、企業及び業界団体や保護者、卒業生等で構成する学校関係者評価委員会を設置し、学校自己点検・評価報告書をもとに、様々な立場を代表する委員の皆様から、本校の学校運営や教育活動に対してご議論いただき点検・評価していただいております。

以下、先般開催した学校関係者評価委員会の点検・評価結果について報告します。

1. 実施日時・場所

平成27年9月15日（火）12:00～15:30

筑波研究学園専門学校 6号館大講義室

2. 実施方法

(1) 実施組織：学校関係者評価委員会

○評価委員

豊田 高久 筑波銀行上席執行役員本店営業部長
辻 信行 ツジ電子株式会社代表取締役、茨城研究開発型企業交流協会会長
羽澄 順二 元（株）カスミ取締役、（株）つくば研究開発支援機構監査役
平塚知真子 （株）エデュケーションデザインラボ代表取締役、（一社）みらいウェブ推進協会理事長
中山 和則 筑波メディカルセンター病院 副院長
渡邊 壽恵 元つくば秀英高校校長、元筑波研究学園専門学校副校長
古森 貞弘 元県立牛久高校校長、筑波研究学園専門学校第5代校長
浅田 順 （学）霞ヶ浦高等学校理事・元校長、石岡市教育委員会委員長
安田 秀司 （学）安田学園理事長 アカデミア幼稚園園長
齋藤 鐵哉 （独）物質・材料研究機構名誉顧問、（一財）総合科学研究機構センター長
青木 貞雄 （一財）総合科学研究機構 理事
竹内 俊作 （一財）日本自動車研究所 業務執行理事
中村のり子 五籃会会長、（株）中村自動車工業専務取締役
堀内 敬王 TIST 建友会会長、鹿島市役所

○学校関係

西谷 隆義 （学）筑波研究学園 理事長
柿崎 明人 筑波研究学園専門学校 学校長
鈴木 一男 筑波研究学園専門学校 電子機械工学科長
伊能 正登 筑波研究学園専門学校 自動車整備工学科長
大野 克典 筑波研究学園専門学校 建築環境学科長
水越 武 筑波研究学園専門学校 経営情報学科長

横瀬 和子 筑波研究学園専門学校 医療情報学科長
大森 淳子 筑波研究学園専門学校 幼児保育学科長
野口 孝之 筑波研究学園専門学校 教務・学生部長
赤羽根隆之 筑波研究学園専門学校 企画部長
檜山 直己 筑波研究学園専門学校 入学広報部長
葛綿 賢二 筑波研究学園専門学校 進路情報部長
田邊 寛 筑波研究学園専門学校 事務部長
志賀 宏 (学) 筑波研究学園 事務局長

(2) 評価基準：文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠

(3) 評価方法：平成26年度学校自己点検・評価報告書に対する学校関係者評価

3. 評価の項目

次の11項目について実施

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受け入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献
- (11) 国際交流 (任意)

4. 評価項目に対する評価

(1) 次の4段階で点数評価しました。

4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

(2) それぞれの評価項目に対する状況と課題、対策についても報告いたします。

5. その他

平成26年度 学校自己点検・評価を併せてご覧ください。

項目1 教育理念・目標

評価：4

- ・理念・目的等は、理事会・評議委員会においても議論の上、設定されていることから問題はないと考えられる。
- ・自己点検に関しては、教育課程編成委員会の外部委員の考え方も加えられており、評価は概ね適切である。

項目2 学校運営

評価：4

- ・運営方針が策定され、教務財務等の組織や意志決定システムが整備されており、学校運営は適正である。
- ・経営者・管理職（目標を定める側）と一般職員（目標に従いオペレーションする側）を分けて意見を吸い上げ、その上で議論し活性化を図ることも必要である。
- ・教職員に対して周知が十分でない項目については、改善する必要がある。学校側は課題となった内容を、教職員にフィードバックして欲しい。

項目3 教育活動

評価：4

- ・資料全体を見て判断すると、教育活動についての取り組みは適正である。
- ・自己点検評価に厳しい点数をつけ過ぎでは無いか。実態と合っていないように感じる。
- ・昨年の自己点検評価も努力目標として厳しく評価してきた経緯がある。そのような意味では教員が努力目標として厳しく評価したままで良いのではないだろうか。
- ・教員の視点に立てば自己反省・もう少し努力ということになり、常に満点と言うことは無く評価は厳しいものになりがちだが、外部委員としては資料全体を見て評価したい。
- ・必要な教員が揃っているかと言う質問に対して教員が評価するのは疑問である。
- ・評価項目については、足りない部分もあるので見直しを検討して欲しい。

項目4 学修成果

評価：4

- ・学校としての取り組みを総合的に判断すると、学修成果は順調に推移している。
- ・卒業生に関しては出口指導が重要である。就職先に訪問するばかりでなく卒業生への声掛けが必要になっている。早期離職の徴候を見つけるためにも不可欠である。
- ・資格取得の成果は学科によってばらつきが大きい。その点については厳しく評価したい。
- ・退学率の低減には繋がっていないのではないかと。前年の退学率と比較して5%→4%で向上していると考えて良いのか。
- ・学修内容の評価について前半の項目は問題ないと考えられる。全体的に評価して、学校として努力している姿勢を評価したい。

項目5 学生支援 評価：4

- ・常総市の水害について、被害を受けた学生へのフォローをお願いしたい。
- ※学生の被害は、床上・床下浸水で20数名。学校として経済面での支援を行っていきたい。

項目6 教育環境 評価：4

- ・施設の老朽化はあるが、メンテナンスなどで対応できているので問題はないと考えられる。また、教育施設や設備は整備されていると認識している。
- ・教育環境として、施設などのハードウェアの評価のなかにインターンシップが混じっているのは不自然ではないだろうか。
- ・インターンシップの受入体制が整っている点では教育環境として考えられる。

項目7 学生の受け入れ募集 評価：4

- ・28年度入学者の分析等、戦略策定から実施までの進捗は順調と見える。
- ・TIST ネットワーク、Web、高校への在校生の状況報告なども問題なし。
- ・Webのブラッシュアップを継続し、最新情報を提供できる状態を維持する。

項目8 財務 評価：4

- ・理事会、評議員会にて承認を得ているため適正であるとする。
- ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているようである。今後も入学者の確保、退学者の低減に努めてほしい。

項目9 法令等の遵守 評価：4

- ・法令、専修学校設置基準の遵守については適正である。
- ・「個人情報保護の対策」については、学校として体制を維持していくとともに、教職員・学生ともに繰り返し啓蒙を行っていくことが大切である。

項目10 社会貢献・地域貢献 評価：4

- ・学生のボランティア活動が維持できるための支援は継続して欲しい。
- ・学校施設の開放や公開講座等が適切に行われていることは評価できる。

項目11 国際交流（任意） 評価：3

- ・現状において積極的な留学生の受け入れは行っていないが、将来に向けて受け入れを検討することとしており、前向きな姿勢は評価できる。